

二十歳の門出を祝う



二十歳を迎えた皆さんの門出を祝し、「令和7年米子市二十歳（はたち）を祝う会」を、1月3日に米子コンベンションセンターで開催しました。

このたび二十歳を迎えるのは市内在住の平成16年4月2日から平成17年4月1日生まれの方で、計1,354人でした。祝う会には1,079人の二十歳を迎える方が出席し、社会人としての決意を新たにしました。

閩生涯学習課（☎ 23-5442）

令和7年二十歳を祝う会記念感想文 入賞者

最優秀賞 ふくち かなこ 福地 夏菜子さん「当たり前に感謝」

優秀賞 たかき せいじ 高木 誠治さん「何気ない日々を大切に」

入選 しょうはた けいご 正畑 圭悟さん「二十歳としての自覚と責任」

入選 おおうえ こうよう 大上 仰陽さん「二十歳の決意」



米子市二十歳を祝う会をいっしょにいわおう 協賛企業一覧

株式会社稲田本店、有限会社京都屋、エア・ウォーターアグリ&フーズ株式会社、寿製菓株式会社お菓子の壽城、ローカルエナジー株式会社、株式会社源吉兆庵、永伸商事株式会社
協賛企業の皆さま、ありがとうございました。

誓いのことば

福地 夏菜子さん

私はこれまでの二十年間、何なく生活してきました。小学校から大学まで当たり前のように入進学し、かけがえない友人たちと出会い、温かい家族に囲まれて過ごしてきました。しかし、振り返ると、その日々が当たり前ではなく、どれほど幸せであったかに気が付きました。

私は今、県外で一人暮らしをしています。今までとは全く違った環境の中で一人で生活をしていくのは、毎日ドキドキの連続です。家を出る時も帰る時も家には自分一人。食事をする時も一人です。また、街中などで旅行中の家族をみるとすごく羨ましい気持ちになります。当たり前だった家族との食事や旅行も、今で

はすごく尊いものだと感じるようになりました。

私たちは学生生活のほとんどをコロナウイルスとともに過ごしました。憧れの制服に身を包み、希望に胸を膨らませ入学したと思いきや、早速オンライン授業。部活動の試合や学校祭の規模縮小、卒業アルバムはマスキをつけた写真ばかりでした。高校を卒業した今でも、悔しいな、やり直したいなと思うことは少なくありません。入学前の想像とは少し違う学校生活でしたが、今でも戻りたいと思えるほど、自分にとってかけがえない時間でした。コロナ禍でも学校に行けたこと、友人たちと出会えたことは当たり前ではなく、忘れられない学校生活を送ることができたのは、先生方、そして友人たちのおかげだと思います。

私の将来の夢は客室乗務員になり、世界中を飛び回ることです。大学でも主に外国語を勉強しています。大学もそう簡単にいける場所ではありません。今までたくさん留学にも行かせてもらいました。今月末にもまた新しい国へ出発します。どれだけ迷惑をかけても私の夢を一番に応援してくれる家族には、感謝してもしきれません。そんな家族がいる私は、すごく幸せ者だと思います。

日々の生活の中で私たちが「当たり前」だと思っていることが、実はそれほど貴重で大切なものであるか、今改めて実感しています。どんなときでも味方になって支えてくれる家族や、笑いあえる友人がいること、毎日学校に通えて勉強ができること、米子というあたたかくて大好きな地元があること、どれも全て、かけが

えのない幸せなことです。そのすべてに感謝し、恩返しをしていきたいと思っています。

二十歳を迎え、私たちは新たな一歩を踏み出す準備をしています。大人になるということは、単に年齢を重ねるだけではなく、これまでの「当たり前」を大切にし、その価値を理解し、自分を支えてくれた人たちへの感謝の気持ちを持ち続けることだと思います。このような特別な日を迎えることができたのも、決して当たり前ではありません。

今までの「当たり前の日々」の大切さを忘れず、感謝の気持ちを持ちながら成長していくことをここに誓い、代表のあいさつとさせていただきます。

